

コンテンツ教育学会ワードテンプレート

Word Template for CCRA Journals

日本太郎*1 教育花子*2 コンテンツ次郎*3

Taro NIHON*1, Hanako KYOIKU*2, Jiro CONTENTS*3

あらまし:これはコンテンツ教育学会に投稿する投稿用原稿を MS-Word を用いて作成し提出するためのテンプレートである。このテンプレートでは、タイトル、著者名、本文などはあらかじめフォントサイズなどの書式が設定されており、必要に応じてひな形として参照されたい。ここには和文のあらましを記述する。

キーワード:コンテンツ教育学会, ワード, テンプレート, スタイル

1. はじめに

原稿は完全版下 (camera ready) とし、誤字や脱字がないよう仕上げる。論文タイトルや著者名、見出しや本文など、このテンプレートファイルを参照し、記述すること。

2. 投稿原稿の作成方法

2.1 投稿原稿の構成

投稿原稿は下記項目を記載する。

- (1) 論文の分類 (論文, 研究速報など)
- (2) 論文題名 (和文, 英文)
- (3) 著者名 (和文, 英文)
- (4) 所属 (和文, 英文)
- (5) 和文あらまし (400 字程度)
- (6) 和文キーワード (4-5 語程度)
- (7) 本文
- (8) 謝辞 (記載する場合のみ)
- (9) 参考文献
- (10) 付録 (付記すべき項目がある場合のみ)

*1 コンテンツ大学教育学部
Faculty of Education, Contents University

*2 教育株式会社
Education Corporation

*3 大阪コンテンツ株式会社
Osaka Contents Corporation

- (11) すべての図、写真、表、およびそのキャプション

2.2 見出し

見出しはレベルに応じてスタイル「見出し1」「見出し2」「見出し3」を用いること。

2.3 文章の記述

2.3.1 フォントサイズ

本文のフォントは、日本語:MS 明朝 9pt, 英数字:Times New roman 9pt とする。

2.3.2 句読点

句点には全角の「.」, 読点には全角の「,」を用いる。ただし英文中や数式中で「.」や「,」を使う場合には、半角文字を使う。「.(全角)」や「,(全角)」は一切使わない。

2.3.3 全角文字と半角文字

全角文字と半角文字の両方にある文字は次のように使い分ける。

- 括弧は全角の「(」と「)」を用いる。但し、英文の概要、図表見出し、書誌データでは半角の「(」と「)」を用いる。
- 英数字、空白、記号類は半角文字を用いる。ただし、句読点に関しては、前項で述べたような例外がある。
- カタカナは全角文字を用いる。
- 引用符では開きと閉じを区別する。開きには“を用い、閉じには”を用いる。

2.4 図、写真、表

すべての図、写真、表には題名(キャプション)をつける。図、写真、表中の文字は刷り上がりの大きさと判別できるように作成する(7ポイントが目安)。題名(キャプション)は中央揃えとする。

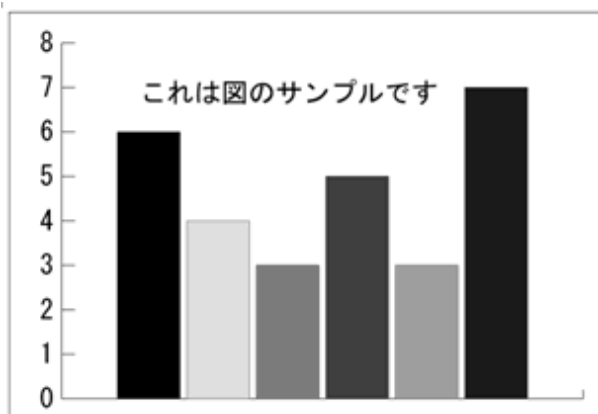


図1 図のサンプル

表1 表のサンプル

サンプル名	大きさ	重さ
AAA	10mm × 10mm	10g
BBB	5mm × 10mm	20g

2.5 参考文献

参考文献は、以下のスタイルに従ってリスト化し、引用する。

2.5.1 文献のリスト法

(a) 著者が複数の場合には、全著者の氏名を記入する。なお、欧文の場合にはイニシャルと姓名を記入し、A. G. Wineのようにイニシャルと姓名の間にのみ半角スペースを挿入する。

(b) 欧文文献においては、常に半角ピリオド「.」と半角カンマ「,」を用いる。和文文献においては、読点には全角の「,」を用い、「vol.」、「no.」、「pp.」あるいは月名等の省略記号及び行末の句点には半角ピリオド「.」を用いる。なお、vol. 1, no. 1, pp. 20-27 等の場合には、半角ピリオド「.」の後ろにはスペースは挿入しない。

(c) 発行の年月を記載する場合には、月年の順で、月名には英語を、年には西暦を用いる。なお後述の参考文献の参照方法で著者名と発行年を記述する方法を取る場合、発行年を著者名の後に記述すること。

(d) URL アドレスを参照する場、URL とともに参照日を記載する。

2.5.2 参考文献の参照

本文中に参考文献を引用する場合、[1] のように角括弧の中に数字を記載する。もしくは(山田 2008) のように著

者名と発表年で記す。著者名と発表年で記述する場合、参考文献のリストの順番は著者苗字のアルファベット順で列挙し、同一著者の著作物が複数ある場合は発行年の昇順、また同一の著者が同一年に複数の文献を発表したものを参照する場合のみ、発表年の表記は 2010a, 2010b...とアルファベットを付す。

3. むすび

投稿原稿の準備ができましたらご投稿ください。ご投稿をお待ちしております。

謝辞

謝辞があればここに記載する。

参考文献

- [1] 日本太郎, コンテンツ教育の基礎, コンテンツ教育研究, vol. 1, No. 1, pp. 20-27, Jan. 2003.
- [2] T. Kyouiku, H Contents, and C. D. Tanaka, Design of Contents and Education, Proc. CCRA, vol. 2, no. 3, pp. 84-90, March 2005.
- [3] 山田太郎, 田中花子, デザイン教育学入門, デザイン出版, 1999.
- [4] コンテンツ教育事例, <http://aaa.bbb.com/> (参照日 2016. 03. 20)

参考文献

- T. Kyouiku, H Contents, and C. D. Tanaka(2005), Design of Contents and Education, Proc. CCRA, vol. 2, no. 3, pp. 84-90
- コンテンツ教育事例 (2016), <http://aaa.bbb.com/> (参照日 2016. 03. 20)
- 日本太郎 (2003), コンテンツ教育の基礎, コンテンツ教育研究, vol. 1, No. 1, pp. 20-27
- 山田太郎, 田中花子 (1999), デザイン教育学入門, デザイン出版